

# 特集 学生の研究活動報告－国内学会大会・国際会議参加記 27

## RUBeC 演習に参加して

中 平 将  
Sho NAKADAIRA

情報メディア学専攻修士課程 1年

### 1. はじめに

私は、2017年8月19日から9月4日の期間、アメリカ合衆国カリフォルニア州にある Ryukoku University Berkeley Center (RUBeC) で行われた「RUBeC 演習 I」に参加した。約2週間、カリフォルニア州バークレー市にある Jodo Shinsyu Center にて、主に英語のライティングとオーラルプレゼンテーションのスキルを学習した。また、龍谷大学の協定校である University of California, Davis (UC Davis) と、カリフォルニア州サンタローザに本社を置く企業 Keysight Technologies Company を訪問することによって、現地の大学、企業の様子について学んだ。今回は RUBeC 演習 I の学習内容について報告する。

### 2. RUBeC 演習 I に参加した目的

今回、私がこのプログラムに参加した目的は3つある。1つ目は国際会議にむけて英語の原稿作成の方法、英語でのオーラルプレゼンテーション方法を学ぶことである。2つ目は、海外の大学や企業について知ることである。3つ目は、私は海外渡航経験がなかったため、海外の生活、文化の違いや、英語でコミュニケーションをとるために何が必要かなどを知ることである。このようなことを経験できる機会は数少ないと思い、この演習に参加した。

### 3. 授業内容

この演習の授業内容は2つに分かれている。9:00-11:30 にテクニカルライティング、13:00-15:00 にオーラルプレゼンテーションの方法を学んだ。その後は Teaching Assistant 付きで授業の課題に取り組んだ。授業は現地の先生が教えているた

め、全て英語で行われた。

#### 3.1 テクニカルライティング

事前準備として自分の研究のアブストラクトを英語で作成した。テクニカルライティングでは主に3つのことを行った。

1つ目は英語の文法について学んだ。日本人があまり理解できていない冠詞 a(an), the や、単数形と複数形、前置詞 on, of, in, 接続詞 and, or, but などの使い分けについて学んだ。また、複数の文を1つの文にする方法についても学んだ。この練習として問題を解いたり英文を作成した。

2つ目は事前に作成した原稿を授業で習ったことに注意しながら修正した。現地の先生に添削してもらった結果を見ながら1対1でなぜ間違えているかを聞いて修正した。添削結果の一例を図1に示す。

3つ目は最終日に自分の研究について他の生徒と1対1で話し合った。最初に伝える人が自分の研究内容を相手に3分間伝え、次に聞く人が理解を深めるために相手の研究について3分間質問した。これを5回ずつ行った。自分の研究を英語で伝えることはとても困難であったが回数を重ねるごとにコツがわかるようになり、段々と伝わるようになった。

この授業を通して、冠詞の使い方や複数形などの使い分けを理解できたので、英語の文を作成するときや読むときは授業で習ったことに注意したい。

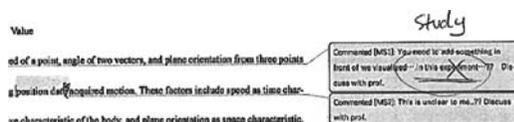


図1 原稿の添削結果

#### 3.2 オーラルプレゼンテーション

こちらも事前準備として自分の研究のパワーポイント資料を英語で作成した。オーラルプレゼンテーションでは主に3つのことを行った。

まず、プレゼンテーションをするときに大事なことを学んだ。発表時にはスマイル、ジェスチャー、



図2 プレゼンテーションの風景

アイコンタクトが大切だと言われ、なぜ大切か、どのようにするかを教えてもらった。また、英語の発音やアクセントをどのようにするか、“chunk”という発表時の文の区切りについて教えてもらった。

次に、スライドの作成方法を学んだ。Yahoo と Google の検索エンジンを例に相手にわかりやすく伝えるスライドの作成方法を学び、余分な情報を減らしたり、わかりやすい図に変えたりするなどして自分のスライドを修正した。

最後に、最終日に自分の研究についてプレゼンテーションを5分間行った。プレゼンテーションの風景を図2に示す。授業で習ったジェスチャーや“chunk”などに注意して行った。日本で行うプレゼンテーションではアイコンタクトやスマイルなどを意識していなかったのがとても難しく感じたが、最後のプレゼンテーションでは意識してできるようになった。しかし、英語の発音があまり良くなかったので今後は発音の練習を数多く行いたいと思う。

この授業で学んだことは日本語のプレゼンテーションにも共通することなので、これからは習ったことに注意しながら発表するようにしたい。

#### 4. 大学、企業訪問

8月23日に UC Davis, 30日に Keysight Technologies Company に訪問した。

#### 4.1 UC Davis

UC Davis は学生数が約 30,000 人、キャンパスの広さが 4 km×5 km もある非常に大きな大学である。UC Davis は農学部が有名であり、農学部と獣医学部の連携が強く、さらに学外との連携も強い。UC Davis の大学院課程は 8 つ存在し、Energy System や Transportation Technology and Policy は他の大学にないユニークな課程である。バスの運転、食堂の店員など大学にある施設は大学生で運営したり、自分の分野以外の人も研究について議論をするなど、学生が自主的に動いていることに刺激を受けた。

#### 4.2 Keysight Technologies Company

Keysight Technologies Company はオシロスコープなどの測定器を作っている会社である。世界に多くの支社が存在し、日本にも八王子を含む 3 つの支社が存在している。単純な実験を繰り返すロボットの開発やチップセットの製造過程などを実際に見学した。仕事だけでなく社内の写真コンテストなどの趣味を楽しんでいることがわかり、文化の違いを体感できた。

#### 5. おわりに

今回 RUBeC 演習 I に参加し、英語のライティングとオーラルプレゼンテーションについて学んだ。また、UC Davis と Keysight Technologies Company を訪問し、海外の大学や企業について学んだ。

この演習に参加して語彙力の低さを認知したので今後は語彙力の向上や、この演習で習ったことを国際会議の発表に活かすことを目指す。

最後に RUBeC 演習にあたってお世話になった大津先生、小野先生、曾我先生、田原先生、富崎先生、このプログラムを組んでくださった関係者の方に心から感謝します。